



# 夢はかなうよ ～仲間とともに～

中部酪農青年女性会議 小笠原 和美

## 私の原点 小笠原牧場のなかまたち

結婚して数年が経った頃、夫から「ねえ、かずみちゃん。親父もお袋も年をとってくるし、規模拡大して雇用を考えてるんだけど、どう思う?」と、聞かれました。当時より、オイスカの海外研修生の受け入れなどを行っていましたが、食事の用意や、健康面や、精神面のフォローに大変さを感じていたので、「雇用は考えず二人でのんびり酪農をしたい。」と、答えました。「だけど、それじゃあ家族でどこにもでかけられないよ。」と、言われ、「う～ん、それも困るなあ。」と、賛成とも反対とも言えない返事をして十数年。相談されたのは、この時一度きりのように思いますが、気がつけば経産牛 60 頭、育成牛 30 頭から経産牛 260 頭、育成牛 120 頭への大規模牧場になっていました。

(有)小笠原牧場は、夫（社長）と私、夫の父、従業員 2 名、パート・アルバイト 9 名（同時でない）、オイスカの海外研修生 2 名で管理しています。小笠原牧場の目指しているのは、資源循環型酪農です。エコフィールドのおから、おち味噌など積極的に食品残渣を使っています。規模拡大のなかで問題となっていた堆肥処理も、5 割は戻し堆肥として利用しています。有志で堆肥利用組合を作り、耕畜連携によって市の助成をうけながら、100 ヘクタールの水田に 2 トンダンプでおよそ 1,000 車の堆肥を散布し、堆肥の問題を解決しています。



### ～オイスカ～

オイスカ・インターナショナルは、1961 年に設立された、日本に本部を置く国際 NGO です。農業を通じた人づくり・国づくりを目指し、アジア太平洋地域の国々で「農村開発」「人材育成」「環境保全」「普及啓発」を行っています。

規模を拡大し、雇用をするにあたっては、色々な苦勞がありました。自動給餌機や、搾乳ロボット等の選択もあり、迷いましたが、人とともに経営することを選びました。アルバイトに來たいという学生がいれば、それほど必要がなくても、酪農に興味を持ってきている心を大切に、受け入れてきました。現在、多くのスタッフが小笠原牧場で働いてくれています。「和」と「自主性」を大切に、毎朝、仕事の後でおにぎりやゆで卵と搾りたての牛乳（毎日同じメニューでごめんなさい）で朝食を摂りながらミーティングをしています。また、1、2か月に1回、勉強会を行い、スキルアップを図っています。

こうして時が経って振り返ってみると、途切れることなく人が繋がり、小笠原牧場を支えてくれてきたことに、感謝の気持ちで一杯になります。

表 (有)小笠原牧場の概要

頭数	経産牛／260頭（搾乳牛220頭） 育成牛／120頭（うち北海道預託60頭）
出荷乳量	2,670t（日量7.3t）
従事者	夫、義父、私、従業員2名、 パート・アルバイト9名、オイスカの海外研修生2名
会社	平成13年に有限会社化
搾乳	10Wパラレルパーラー（H20.8より稼働） 3回搾乳（AM5：00、PM1：30、PM9：00）
飼料給与	TMR エコフィード利用（1日当たりおから1t、みそ約60kg等）
自給飼料	転作田6ha+畑2haで春作イタリアンライグラス、 夏作スーダングラス2回ロールラップサイレージとして利用 昨年度 稲発酵粗飼料（WCS）3.7ha収穫 現在、1日当たり1ロール（約500kg）づつ給与
ふん尿処理	発酵ハウス2棟、堆肥舎1棟 製品の5割は戻し堆肥としてフリーバーンで利用 冬季に耕畜連携として水田へ散布（共同で100ha）

## 大好き 青年女性部の仲間たち

平成20年、私たち愛知県酪農青年女性部の役員会では、ひとつの議論がされていました。「父の日に牛乳を贈ろうキャンペーン」で、青年女性部として、「ありがとうメッセージ」を公募したらどうかという議案に関してです。厳しい経営状況の中で、誰もが自分の家の経営に力を注ぎたい時期で、新しい事業は負担ただけのように思われましたが、消費拡大のために何かをしなくては・・・というみんなの思いがひとつになり、実現することができました。

平成20年度応募総数104通、平成21年度応募総数613通。どれも心あたたまるメッセージが届けられました。選ぶのには本当に苦勞しました。優秀2作品は、役員が乳製品とメッセージを直接届け、お子さんからお父さんに日頃の感謝の気持ちが綴られたメッセージのプレゼントしてもらい、牛乳で乾杯をしました。



平成 20 年度の特賞  
お父さんへのメッセージ

お仕事がんばってくれてありがとう。やさしくしてくれてありがとう。もっとかっこいいお父さんがいいとか、お酒を飲まないお父さんがいいとかいろいろ思うけど、一番思うのは実日子のお父さんでありがとう。

～長坂実日子さんより～

また、畜産フェスタの中での牛乳飲みっぷりコンテストや共進会のレディースクラスへ参加された消費者の方への手作りの乳製品でのもてなし等、新しい消費者との交流をいくつか行いました。

昨年、愛知県で行われた全国酪農青年女性会議の経営発表大会では、全国の仲間たちに楽しんでもらおうと、仲間の1人が企画し、役員みんなで作り上げた搾乳模擬機を使い、全国ミセスHカップ争奪戦を行いました。余興を盛り上げるための衣装も、全て私達で手作りしました。みんな忙しい人たちばかりなのに、よく頑張ったなあと感謝しています。仲間ですべての事をやり遂げる楽しさを青年女性部の活動のなかで体験させて頂きました。



## 楽酪隊結成

それぞれの役員任期が終了する頃、こんな素晴らしい仲間とこのまま離れ離れになるのは残念という思いから、「酪農の価値をもっと高めようよ。楽しみながら、何かできることをみんなでやろうよ。」というコンセプトを持った集まり、「楽酪隊」が結成されました。メンバーは、酪農家、愛知県の酪農関係者（県酪協、県職員等）、酪農ヘルパーさん、獣医さん、報道関係者、大学の先生など色々です。

メンバーの1人が、酪農を消費者の方にもっと理解してもらおうと、牛への思いを綴った曲を作りました。昨年の8月には、中部酪農青年女性会議主催の子弟交流会の2泊3日のキャンプファイヤーで、「牛乳は国産100%」が初めて披露され、子供たちに大好評でした。また、3月に行われた中部発表大会の懇親会では、牛乳が健康に良い事を歌った曲、「アブラカタブラミルク」をみんなで歌って踊って観て頂きました。

現在、歌9曲が東海農政局のホームページでダウンロードできます(キーワード「東海農政局」、「楽酪隊」で検索して下さい。仲間の活躍をご覧頂けます)。



子弟交流会は、中部酪農青年女性会議の先輩委員の方々の酪農家子弟への温かい思いが受け継がれ、平成5年から17年間も続いています。私の娘もお世話になり、感銘を受け、私自身が中部酪農青年女性会議の委員をさせて頂ききっかけとなった活動です。

## 農業の6次産業化

昨年、楽酪隊のメンバーでもある、我が小笠原牧場と北村牧場の2牧場で、「酪農の価値を高めよう。」と意気投合し、かねてからの夢であった乳製品の加工販売を行う、合同会社「酪」を設立しました。農工商連携によって平成21年11月1日にオープンした道の駅、「にしお岡ノ山」にてソフトクリームを主目品とし、その他、プリン、生キャラメル等の製造販売、チーズ委託製造販売を始めました。今でも覚えています、初めて私達の牧場の乳で作ったソフトクリームを食べた時、仲間と涙が出るほど喜び合いました。今までの酪農の苦勞が吹き飛びました。

(「にしお岡ノ山」ホームページ：<http://okanoyama.com/>)

## 合同会社「酪」の目指す事

酪には次の大切な経営理念があります。

1. 酪は酪農を愛し、乳製品の価値の向上を目指す事業を行います
2. 酪は地域を愛し、地域の活性化に貢献する事業を目指します
3. 酪は人を愛し、組織の和を大切に、人に感動を与え感謝される事業を目指します

私は今、仲間と「酪」を起業し、忙しい中にも今までにない充実感を得ています。仕事への「喜び」と「達成感」を味わい、遠い昔に諦めていた大好きなデザインを生かす場を得ました。昨年、道の駅の協力を得て行ったネーミング募集では、1,000通を超える応募の中から「酪ッキー」と名付けられた「酪」のキャラクターが誕生しました。消費者が美味しいと買って下さる製品全てに、私のデザインが描かれています。Tシャツのデザインも担当しました。一つ一つ商品化が進む中で仲間に背中をソッと押され、励まされ、力を与えられ、ここまでこれたことに感謝しています。



私たち「酪」の存在意義として、食育、地産地消の役割があります。私達が生産し、加工、販売することによって消費者に直に牛乳の素晴らしさ、酪農の素晴らしさを伝えることができること。そして、私たちの堆肥を利用し、栽培された「西尾抹茶」を使い、アイスコーンも西尾で作られた物を使っています。これからは、地元青年農家のフルーツを使ったりと仲間を増やし、オンラインワンの乳製品を目指し、楽しみながら活動して行きたいと思っています。

また、我が牧場は平成17年に酪農教育ファームの認証を受け、毎年、小学生の受け入れや、わくわくモーモースクールへの参加を行っています。その経験を活かし、「にしお岡の山」にて、哺乳体験を行い、牛とのふれあいを楽しんで頂く予定です。

酪農を愛し、地域を愛し、人を愛する、それが私達、合同会社「酪」の考え方です。

### 最後に

家族や小笠原牧場のスタッフに支えられ、同じ思いを持つ仲間との良き出会いを通じ、ひとりではとてもできないことも、仲間となら実現できるという勇気を頂き、大きな一歩を踏み出すことができました。みんなに感謝です。

全国で、いろいろな活動をしている酪農家の仲間の皆さん、楽しみながら、消費拡大を目指して頑張りましょう。牛乳の、そして酪農の本当の価値を消費者のみなさんが再認識してくださるその日まで……。

そして、私たちのさらなる夢は、「酪ッキー」が主人公の絵本をつくることです。世界を旅していろいろな問題を酪農を通して解決してゆく内容です。楽酪隊のメンバーの多種多様なそれぞれの得意な分野を生かし、みんなで楽しみながら物語を作ってゆけたらと思っています。

なんだか夢のようなお話ですが……。

でも「夢はかなうよ。仲間とともに」